

授業評価・授業研究報告書

家政教育・藤田昌子

1. 授業の概要

(1)対象授業の科目区分など

【対象授業の科目区分】教職科目

【科目名】家庭科教育法 3・家庭科教育法Ⅲ

【登録学生数】8名（「家庭科教育法 3」6名・「家庭科教育法Ⅲ」2名）

そのうち、「家庭科教育実践研究」も同時に履修している 5名について考察する。

(2)目的，到達目標，関連する DP

【目的】

中・高家庭科の教員免許取得のために必要な科目であり，家庭科教育の実践方法を学び，授業実践のための知識と技能を習得する。

【授業の到達目標】

1) 家庭科の目標と学習内容を理解し，学習方法と指導上の留意点について説明できる。

2) 家庭科の授業設計と学習方法について学び，効果的な授業実践について考えることができる。

3) 学習指導案作成の意義と方法を習得し，グループで授業設計をして模擬授業を実践できる。

【ディプロマ・ポリシー】

①知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と，得意とする分野・教科等についての専門的知識を修得している。

②思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について，専門的な知見をもとに，その対応方策を理論に基づいて総合的に考え，その過程や結果を適切に表現することができる。

2. 授業評価・授業研究「教科教育教員と教科専門教員の協働による授業の構築と改善」

「家庭科教育法 3」「家庭科教育法Ⅲ」（以下，「家庭科教育法 3」とする）と同時期に開講される「家庭科教育実践研究」（金子・眞鍋・岡本教員）を連動させて実践した。また，4人の教員で授業カンファレンスの手法を用いて FD 活動を行った。

(1)学生の評価・課題

1)両授業の連携

「家庭科教育実践研究」での教材研究・教材開発と作成を「家庭科教育法 3」で活かすことができたかを学生が 4段階で評価したところ，「4. できた」が 4名，「3. かなりできた」が 1名であり，両授業の連携はできていたと評価された。その具体的な理由として，「自分たちではできない実験ができ，模擬授業に活かすことができた」「教材研究で得た知識を模擬授業の説明に利用することができた」などの意見が挙げられた。

また，授業において学んだことや学んでよかったことについて，「教科専門の先生とともに教材を絞り込み，その開発を追求していくことができたので，教材を活用した模擬授業が組み立てやすかった」「模擬授業に関する教材研究ができて，教科書に載っている以上の知識が得られたことがよかった。また教材研究の方法や視点を学ぶことができた。」といった記述がみられた。

以上のことから，両授業の連携は学生に評価されたといえる。

2)学生がとらえた自分自身の課題

「専門的知識を高めて正確な説明ができるようにすることはもちろん，教材研究をしっかり行い教材を活かした効果的な授業づくりにつなげたい。」「授業を考えるにあたって教科書に載っていることを知っているだけでは知識不足を感じた。今後は関連した知識をより深く身につけていきたい。」「自身の知識が少ないことが大きな課題」というように，学生が授業を行うにあたって専門的知識不足を振り返っている。教科専門教員と教科教育教員が協働した教材研究・教材開発と作成とそれを活用した模擬授業を通して，学生自身が家庭科の専門性を高める必要性を認識できたといえる。

(2)教員の評価・課題

1)両授業の連携

教材や模擬授業実践に対し、教科専門教員からは自身の専門分野と教員養成のつながりをふまえつつ、各分野の専門的見地や生活事象を捉えるための多様な視点からの指摘がなされた。一方、教科教育教員からは教科内容をふまえながら、学習目標、評価、ワークシート、板書などの「目標と学びと評価の一体化」についての指摘がなされ、それぞれの専門性を活かした協働的指導をすることができた。そのことで、学生は多様な視点から教材化・授業化、授業改善を行うことができたといえる。

また、教科教育教員と教科専門教員が協働で授業を構築し、授業カンファレンスを通して授業改善をはかるという一連の取り組みを通して、各教員の専門性を活かし、自分とは異なる見方・考え方、問題の捉え方を学ぶことができた。そのことで、学生の実態や学生教育に関して共通の課題が確認でき、また各教員の授業に関する課題や課題解決のヒントを得ることで、自分の授業観、教材観を見直すことができた。

2)他の授業との連携

学習指導案において、学生の考える題材観は、この題材を通して身につけさせたい目標は明示されているが、社会的背景をふまえておらず、題材の教育的意義についての言及がなされていない。題材に関わる社会的背景については、各分野の専門科目で学習していることが確認できたので、題材に関わる事象を社会的な視点から捉えられるようにする必要性を感じた。

また、教材研究・教材開発や模擬授業のベースとなる専門的知識不足の解決に向けて、「家庭科教育法3」と「家庭科教育実践研究」の連携だけでなく、教科専門教員と協働して、各専門分野の専門科目や教科教育法を有機的に連携していくことが必要であると考えられた。

さらには、同じ講座に所属し家庭科教員養成のカリキュラムを担いながら、情報を共有できていない面があることを改めて認識した。限られた授業時間のなかで、学生の専門性を高めるために、専門科目についても情報共有を積極的に行い、どのように連携しながら授

業の質を高めていくか検討していく必要がある。

3)教員がとらえた学生の課題

「家庭科教育実践研究」での教材研究・教材開発と作成を行ったのは衣生活・保育・食生活の3分野だけであり、「家庭科教育法3」で実施する全ての模擬授業については行っていない。学生から「家庭科教育実践研究」に対する要望として「(家庭科教育法3と連動して)模擬授業を行う範囲以外の教材研究についても行いたかった」という意見があった。また「家庭科教育法3」への要望は「自分たちが授業を行った内容に関して、実際どのような授業事例があるか知り、共有する時間があるとよいです。」という意見がみられた。

「家庭科教育実践研究」において授業事例の検討や教材研究・教材開発の視点や方法を学習するが、それを活用・応用して他の授業内容についても学生自身が教材研究・教材開発を行っていくべきものである。両授業において、汎用的能力をどのように学生に身につけさせるかが課題である。

(3)家庭科教育法3の課題と授業改善案

ワークシート作成に毎年学生が苦戦しているため、ワークシート活用の意義を押さえた上で、効果的なワークシートと改善点が多いワークシートの比較検討を行わせた。前年度より完成度の高い学生も出てきたが、学習目標、ワークシート、板書の不一致や情報量不足がみられた。「目標と学びと評価の一体化」をめざしてさらに指導の工夫が必要であると感じた。例えば、「目標と学びと評価の一体化」の説明は、学習指導案を用いて教示していたが、今後は、学習指導案以外にもワークシート、板書を活用し、学習目標とこれらの関係性を具体的に考察・検討したりするなどして体験的に学生が理解できるように改善したい。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業では、愛媛県内の中学校家庭科の研究授業等で撮影した授業実践に関するビデオを視聴させている。教材や指導の工夫など学生の家庭科における実践的指導力向上のために有意義なものとなっている。